

週日の説教

金 大烈 神父 2010年6月12日(土)

《マリア様のみ心》

今日は、「聖母のみ心」の日、マリア様のみ心を黙想する日です。

私は、イエス様を人間として考えたとき、本当によい母のもとに生まれたと思います。今日の物語を考えてみてください。普通の母親に、このような態度を見せることができるでしょうか。マリア様とヨセフ様は、子ども(イエス様)を都に残して来てしまったことに気付いて、一日経ってから引き返します。都まで戻ってみると、思いがけない光景を目にします。だからマリア様は「何をしているのですか。お父さんも私もどのくらい心配したか分かりません。」と言います。すると、更に思いがけない答えが返ってきますね。「自分の家にいるのはあたりませではありませんか。」と。もし皆様の子どものような答えをしたら、どうしますか? 殺したいくらい腹が立ちますよね。そうではありませんか。二日も心配して捜し続けたのですよ。やわらかく語られてはいますが、もしこれが現実になったら、自分がおなかを痛めて産んだ子どもでもどうしようもない嫌な気持ちになり、腹が立ちます。それが普通の人間の心です。そうでなければ、本当に悔しくて痛い気持ちになると思います。“この子は大人になったらどうなるのか”と心配ばかりすると思います。しかしマリア様は、『すべてのことを心に納めた』と復員は伝えています。この『心に納めていた』という言葉は、マリア様に冠する箇所によく現れる言葉です。こんなに厚い聖書の中でも、『心に納めた』という表現は私達の母、マリア様にしか使いません。

私は子どもの時に、聖書を通してこの聖母マリア様の物語に出会いました。それから、「どうして自分の母は聖母マリア様とこんなにも違うのか」、「自分の母もこの聖母マリア様のようにになったら幸せなのに」と思ったことがありました。(笑)

とにかく、イエス様は、人間的に本当によい母親のもとで育ったと思います。イエス様の神性は生まれつきのものであったのでしょうか。しかし人性というものは、父親と母親のもとで作られるものです。33歳で、ご自分の人生を積極的に受け入れ、十字架の道を歩むことさえできたこと。その9割は、聖母マリア様と聖ヨセフ様によって育った人性のお陰だったのであるでしょう。いろいろな葛藤もあったでしょう。しかしイエス様は、親から教えてもらった正しさが基準になって、正しい道を歩まれたのだと私は思います。

そのようなマリア様の人柄が分かっていたから、神様は聖ヨセフと聖母マリアに大切な1人子を預けたのでしょう。

皆様、皆様もマリア様のような母性を持っていると私は思います。これは神様からの賜物です。今からでも手遅れではありません。神様がくださったきれいな母の心のために、マリア様を見習おうと頑張りましょう。皆様にもできます。「孫がいるからもうできない」ではありません。皆様が関わっ

ているあらゆる人々に、そのような心を見せればよいと思います。それは、相手も幸せにするし、それ以上に自分自身をも幸せにするでしょう。人が何かおかしいことをした時、「なぜこんなことをするのか」と冷たい顔を見せるのではなく「私も心に納めよう」、「きっと何か理由があるのだろう」と余裕を持って相手を見る心が許されれば、自分でも知らないうちに皆様も『聖母』となれるかもしれません。(笑)

さあ、皆様、頑張りましょう。よろしくお願いします。